

六甲アイランドまちづくり協議会

街路に愛称をつけよう



六甲アイランドは、1986年12月に作成された「六甲アイランド都市機能ゾーン景観形成計画」に基づいて開発され、世界的に誇れるすばらしい海上文化都市が生まれたわけです。

ところが開島20数年が経って、不幸な震災や経済の後退などで、街も段々と疲弊してきていますし、住民の皆様の関心や愛着が希薄になってきていると言われております。

そこで、私達は「まちを元気にする」一つの方法として、六甲アイランドの街路に愛称をつけることを考えました。ご存知のとおり、ニューヨークでもパリでも、また東京でも大阪でも、三宮でも「通り」に愛称がついています。しかし、六甲アイランドでは、残念ながら「リバーモール(範囲が定かでないが。)」以外に名前はありません。行政は道路管理上、都市機能ゾーンの中の道路を、1号線から25号線まで割り振って使っていますが、私達の日常生活では一切活用しておりません。

「愛称をつけるメリットは」

- * 活動を通じて、住民の皆様に街のグランドデザインである「景観形成計画」や街の歴史を知って戴き「自慢できる街=故郷」をつくり上げることに参加していただくこと。
- * 「住居表示」と私達が常用している「街区の呼び名」とが異なる不便を、街路に名前をつけることでお客様の案内が容易になること。
- * 街路に愛称をつけることで、通りの個性がはっきりし、環境や景観の維持ができること。
- * 景観形成計画の内容と現状との違いを比較し、六甲アイランドの将来を考えるきっかけができること。

平成23年夏ごろ、公募による愛称を募集する活動を計画しております。

六甲アイランド都市機能ゾーン景観形成計画の概要



六甲アイランドは、第3次神戸市総合開発計画において、ポートアイランドに続いて第2の「海上文化都市」と位置づけられて、1972年に着工建設が進められた。そして、1986年12月、この景観形成計画が、「六甲アイランド街づくり協議会・景観形成部会＝部会長 嶋田勝次氏」によって作成されました。何よりも素晴らしい提案は、街の中核を占める都市機能ゾーンを整備するにあたっては、一定の条件のもとに、民間の自由な発想、創意工夫、実行力等を最大限に生かした都市づくりが基本であるとしています。またこの計画の内容、とくに景観誘導計画（街づくりガイドライン）については、これからの新たな状況にあわせて見直すことの必要性も説いています。

（景観形成計画の内容）

景観形成計画は、次の項目で構成されている。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 計画の位置づけ | 5. 都市機能ゾーン景観形成計画 |
| 2. 都市機能ゾーン景観形成の基本目標 | (1) 計画条件 |
| (1) 経緯 | (2) 都市機能ゾーン景観演出計画 |
| (2) 景観形成の基本目標 | (3) 都市機能ゾーン景観誘導計画 |
| 3. 都市機能ゾーン景観形成計画の基本方針 | 6. 都市機能ゾーン景観形成の手続き |
| (1) 景観形成のためのイメージキーワード | |
| (2) 景観形成計画の基本方針 | |
| 4. 都市機能ゾーン景観形成計画のフレーム | |
| (1) 景観のスケール | |
| (2) 景観演出計画と景観誘導計画 | |
| (3) 景観形成計画のフレーム | |



1. 計画の位置づけ

六甲アイランド都市機能ゾーン景観形成計画は、未来に開かれた街として、豊かな環境とすぐれた都市景観をめざし、個性ある街づくりをすすめるためのガイドラインを策定することを目的としている。

2. 都市機能ゾーン景観形成の基本目標

(1) 経緯

六甲アイランドの土地利用計画は、1977年に「六甲アイランド利用計画委員会」において策定され、その後1972年「六甲アイランドを考える会(二次)」において再検討された。そして、この答申を受けて1985年2月に「都市機能研究会報告書」、同年7月に「六甲アイランド住宅計画の考え方」において、六甲アイランドの位置づけが明確にされ、次の通りの具体的な街づくりの方策が示された。

- ＊ 21世紀の新たな海上文化都市をめざして、業務・商業機能、住機能、文化・レクリエーション機能を備えた魅力ある多機能都市づくりを行なう。
- ＊ 中央部、神戸市の将来の発展に寄与する業務・商業ゾーンを配置し、その周辺には多様な住居形態に対応できる住宅街区や魅力ある文化・レクリエーション施設を設ける。
- ＊ 先端技術産業や情報関連産業を中心とする高次の業務機能と人間的な感性とが調和できるように、水辺や緑あふれる良好な環境をつくる。

(2) 景観形成の基本目標

六甲アイランドのまちづくりは、「国際化、高度情報化、さらには高齢化へと進展しつつある社会環境の中で、21世紀に向けた新しい産業経済基盤とするとともに、国際都市神戸の独自性を創出していく拠点とする」ユニークな海上都市づくりである。そしてそのイメージを整理すると。

- ① 未来都市・国際性⇒新しい個性
- ② 未来都市・ハイテク⇒創造性・活気のある街
- ③ 未来都市・緑と水⇒快適な空間

この3つの考え方を景観形成の基本目標とし、それぞれの目標に対応したイメージキーワードを設定する。

- * 新しい個性ある都市づくり⇒都市のアイデンティティ
- * 創造性豊かな活気あるまちづくり⇒街のアクティビティ
- * 豊かで快適な空間づくり⇒空間のアメニティ

3. 都市機能ゾーン景観形成計画の基本方針

(1) 景観形成のためのイメージキーワード

イメージキーワードは、基本目標を具体化する際のよりどころであり、計画を進めていく上での基礎となる。

① アイデンティティ (Identity : 個性、特性)

「街の個性や特性」、つまり「六甲アイランドらしさ」とは何かを考える。

② アクティビティ (Activity : 活動、活気、にぎわい)

整然とした都市景観ではなく、人の活動による「にぎわい」、「おもしろさ」のある街を考える。

③ アメニティ (Amenity : 快適性、心地よさ)

住む人にとっての快適さ、来訪者が楽しめる街角のしゃれた空間、安全で快適な都市空間をデザインする。

(2) 景観形成計画の基本方針

「六甲アイランドにふさわしい、ハイセンスで明るいイメージ」を具体化するための3つの基本方針

- ① アイデンティティ⇒六甲アイランドにふさわしい特徴あるシルエット。デザイン、素材による個性化
- ② アクティビティ⇒軸を構成する街路・水路等では、にぎわいや昇降性を演出する
- ③ アメニティ⇒ゆとりある空間計画を行い、質の高いデザインや素材により、快適な空間を演出する



4. 都市機能ゾーン景観形成計画のフレーム

「神戸市都市景観基本計画」(1982年7月)に沿って、次の3つの景観型を設定する。

(1) 景観のスケール

- ① スーパースケール(Super Scale) ⇒六甲アイランド都市機能ゾーンを一つの都市として考える景観
- ② アーバンスケール(Urban Scale) ⇒六甲アイランドの港湾施設や六甲大橋、六甲連山などを眺めることができるポイントが対象
- ③ コミュニティスケール(Community Scale) ⇒街区内の街角や建物のデザインなど、歩行者のスケールでとらえられる景観

(2) 景観演出計画と景観誘導計画

すぐれた景観を形成していくためには、景観を構成している個々の要素の質の高さと、それらが全体として調和のとれた景観が重要である。ここでは、次の2つの系により構成する。

一つは、都市機能ゾーン全体についての景観形成要素の類型ごとに提案する「景観演出計画」であり、二つは、それぞれのゾーンにおける個々の事業の実施や建築行為に対応して守るべきルールを定めた「景観誘導計画」である。

(3) 景観形成計画のフレーム

	建築物	その他の施設
新交通	駅舎の意匠(形状・材料・色彩等)	桁 橋脚 橋脚足まわり
道 路	歩道橋(シティモール)	街路灯 電柱 交通標識、サイン、広告 街路植栽 ストリートファニチャー 路面舗装
公園・緑地	トイレ 陸橋	柵・フェンス モニュメント 道路との境界部分 展望台 入口、コーナー
教育施設等	校舎等の意匠(形状・材質・色彩等)	周囲の植栽 時計台 校門 フェンス
業務 商業ゾーン	建物の意匠(形状・材料・色彩等) スカイライン	リバーモール 屋外広告物 1階部分の用途 車の出入口 サイン・照明等 駐車場 ゾーン内の植栽 ごみデポ
住宅ゾーン	建物の意匠 住棟配置 設備 ベランダ	ゾーンへの入口 駐車場 柵・フェンス 駐輪場 サイン・照明等 車の出入口 ゾーン内の植栽 ごみデポ
文化 レクリエーションゾーン	建築物の意匠 (形状・材料・色彩等)	ゾーンへの入口 シンボル 柵・フェンス ゾーン内の植樹 サイン・照明等
港湾施設等	建築物の意匠 (形状・材料・色彩等)	街路樹 クレーン
その他	六甲山 六甲大橋	

これらの要素を「景観演出計画」、「景観誘導計画」へと結びつける手だてとして次のエレメントを採用する。

- ① バス： 道路、道筋、線的なもの
- ② エッジ： 境界、バス以外の線状の要素、2つの局面の面
- ③ ディストリクト： 地域、独自の特徴をもつ2次元の広がり
- ④ ノード： 結合点、集中点、都市内部の主要地点
- ⑤ ランドマーク： 目印、外部からもみえるもの

[5ページへ続く]

まちづくり協議会ニュース

「六甲アイランドまちのにぎわい創出実行委員会」が発足しました。

この実行委員会は、CITY自治会・地域振興会、そして私達「まち協」が話しあって、段々と疲弊してゆく街の商業施設を元気にする、現行の色々なイベントを更に盛り上げると同時に、新たに住民の皆様の積極的な参加を促進することが出来る催しを計画し実施することを目的として設立されました。そして、「Cool Rokko Island」の旗印のもと、行政・地域団体・企業・住民が横断的に連携・協働し、街のにぎわいをつくるための中心的な役割を担おうとしています。

「まちかど会議」が開催されます。

平成18年以降休会になっておりました「まちかど会議」が次の通り開催されます。

日時： 2011年2月20日(日) 10:00～12:00

場所： 「ふれあい会館」ホール

委員を募集しています!

まちづくりにご関心のある方
私達と一緒して、活動しましょう!



六甲アイランドの主要な施設やゾーンごとに、景観形成に寄与すると考えられる要素は次の通りである。

エレメント	景観形成要素		景観形成のテーマ			景観形成の手法	
			アイデンティティ	アクティビティ	アメニティ	演出計画	誘導計画
バス	見通し線	S	●		●	○	○
	リバーモール	U	●	●	●	○	○
	景観軸	U	●	●	●	○	○
	シティモール	U	●	●	●	○	○
	歩行者用道路	U	●	●	●	○	○
エッジ	スカイライン	S	●			○	○
	周辺緑地帯	U		●	●	○	○
ディストリクト	夜景	S	●	●			○
	色彩コントロール	U	●	●	●	○	○
	水辺空間	C	●	●	●	○	○
	敷地空間	C	●	●	●	○	○
	建築物の配置・形態	C	●	●	●	○	○
	ファサードデザイン	C	●	●	●	○	○
	植栽	C	●	●	●	○	○
ノード	眺望点	S	●	●	●	○	○
	シンボル	S	●		●	○	○
	シティゲート	U	●		●	○	○
	街角 Ur	U	●	●	●	○	○
	街角 Com	C	●		●	○	○
ランドマーク	ランドマーク	U			●	○	○
	アイストップ	U	●		●	○	○
その他のエレメント	駐車場	C			●	○	○
	建築設備	C	●		●	○	○
	工作物、附属施設	C	●		●	○	○

注：S＝スーパースケール U＝アーバンスケール C＝コミュニティスケール

5. 都市機能ゾーン景観形成計画

(1) 計画の条件

景観形成計画は次の3つの項目 ①土地利用計画 ②道路計画、③既計画及び既存施設 を計画の条件として策定されている。(詳細は省略します)

(2) 都市機能ゾーン景観演出計画

4-(1)で述べた3つの景観型について、順次その景観型にあてはまる景観形成要素の類型ごとに景観形成演出計画を策定する。(詳細は省略します)

(3) 都市機能ゾーン景観誘導計画(街づくりのガイドライン)(詳細は省略します)

以上

「景観形成計画」を無料で配布しています。メールでお申込下さい。
また、まちづくり協議会のホームページにも掲載しています

六甲アイランドまちづくり協議会の活動報告

六甲アイランドまちづくり協議会では、平成22年度の事業方針を次の通り定め、活動を続けております。

1. 六甲アイランド内の いろいろな団体との交流強化

六甲アイランドCity自治会、六甲アイランド地域振興会、六甲アイランド業務・商業連絡会、向洋婦人会、六甲アイランドを美しくする会などの交流を積極的に行ないました。なかでもCity自治会、婦人会とは、それぞれの代表者が、まちづくり協議会・月例委員会にご出席頂き、緊密な提携を図っています。

2. 六甲アイランドの街路に愛称をつける活動

昨年からの継続事業で、今年は「神戸まちづくり六甲アイランド基金」から、助成を受け、本事業推進のため、(1)基礎調査(2)行政との調整(3)六甲アイランド他団体への活動説明と支援要請 (4)六甲アイランド サマー・イベント・カーニバルへの参加(広報ブース設置)とアンケート調査などを実施しました。そして平成23年2月開催予定の「六甲アイランドまちかど会議＝全団体、教育機関、行政が参加」において、本活動を紹介し、六甲アイランド全体が一致協力する事業として採択戴く機会を得ることになりました。

3. 街角広場の追加・変更を提案する活動

景観形成計画で謳われています「六甲アイランドの景観を構成する重要な要素＝街角広場」について、その実態を調査しました。そして、多くの街角広場が神戸市の地区計画指定に洩れていることが判明し、先程「街角広場の追加変更全体構想案」をまとめ、各地権者様のご了解のもと、神戸市長に、指定をお願いする提案をいたします。

(六甲アイランドCITY自治会長からのメッセージ)

「まちづくり協議会とより強固な連携を！」

まちづくり協議会のみなさんにおかれましては、日頃から良いチームワークを発揮され、六甲アイランドがより住みよい街になるように、ご尽力いただき有難うございます。

貴協議会は、当自治会、地域振興会と並んで、行政への要請・協働参画していく重要な民間団体であります。

また昨年10月に、この3団体が合同で立ち上げた「まちのにぎわい創出実行委員会」の運営において、今後より密接に「同志」となって活動していくことになりました。経験豊富で行動力ある「まちづくり協議会」の皆様と一緒に、同じテーマで新しい年を突き進んでいくことは、CITY自治会にとっても大変喜ばしい限りと存じます。

六甲アイランドは、わずか20年程度の歴史ですが、素晴らしい人達が住む街でもあります。

より良い島の将来に向けて、未完成なハードの部分とまだ脆弱な地域力(ソフト面)双方を、六甲アイランド内の関係諸団体やまちづくり協議会の皆様と一緒に、CITY自治会として取り組んで参ります。

今後ともより一層、連携を高めていきましょう!

平成23年1月



六甲アイランドCITY自治会
会長 北野 英希

発行人

六甲アイランドまちづくり協議会
責任者 高寺 正

お問い合わせ先 事務局
email : info@ric-machikyo.jp
HP : <http://www.ric-machikyo.jp>